

# 科学者の社会への 対応性(responsiveness)と責任 (responsibility)

総合科学技術会議

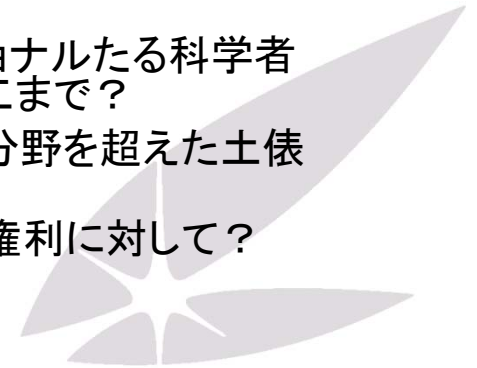
常勤議員

原山優子



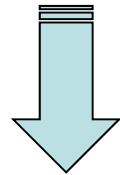
# 科学者の立ち位置

- 科学を「科学」として確立する
  - 科学的手法の確立
  - 科学の学問分野 (scientific disciplines) の台頭
  - 科学の社会的許容、社会的制度 (social institution)
- 科学を推進する
  - 知識生産 (knowledge production) のプロフェッショナル
- 工学の台頭
  - 「社会の役に立つ」
- The Sciences of the Artificial (H. Simon)
- 科学から技術、そしてイノベーションへ
- V. Bush versus R. Oppenheimer
  - 科学と国防 ➡ 科学と技術革新
  - 科学と倫理
- 3.11
  - 以前
    - 学問分野の振興
    - 科学的知見の提供
    - エネルギー政策への関与
    - 安全の担保
  - 以後
    - 科学的知見の提供に限定する？
    - プロフェッショナルたる科学者の責務はどこまで？
    - 自らの専門分野を超えた土俵では？
    - 国民の知る権利に対して？



# 社会的インパクト

- 研究活動 ➡ 知識生産



- 知識の伝達
  - ➡ オピニオン・社会的価値の形成(間接的)
- 専門家としてアドバイス
  - ➡ 政治判断、企業戦略、社会運動(個人的・直接的)
- 科学コミュニティとして意思表示
  - ➡ 社会的価値の形成、政治判断(組織的)



# 社会からの要請

- 一般市民
  - 現象を理解する、主観を形成する、価値判断する、行動する・・・
  - ➡リファランス、エビデンス、ベンチマーキング(マスメディア主体から情報源の多様化へ?)
- 政府
  - 政策策定・遂行の質・精度・効率を高める
    - Evidence-based policy making
  - 科学技術政策・イノベーション政策の経済政策・社会政策への歩み寄り
    - Mainstreaming STI policy
    - Whole-of-government approach
  - ➡科学的データ・分析
  - ➡科学的知見
  - ➡科学者としてのアドバイス
  - ➡アクターとしての科学者

科学者  
対応性を高める？  
新たな責任をどう受け止める？

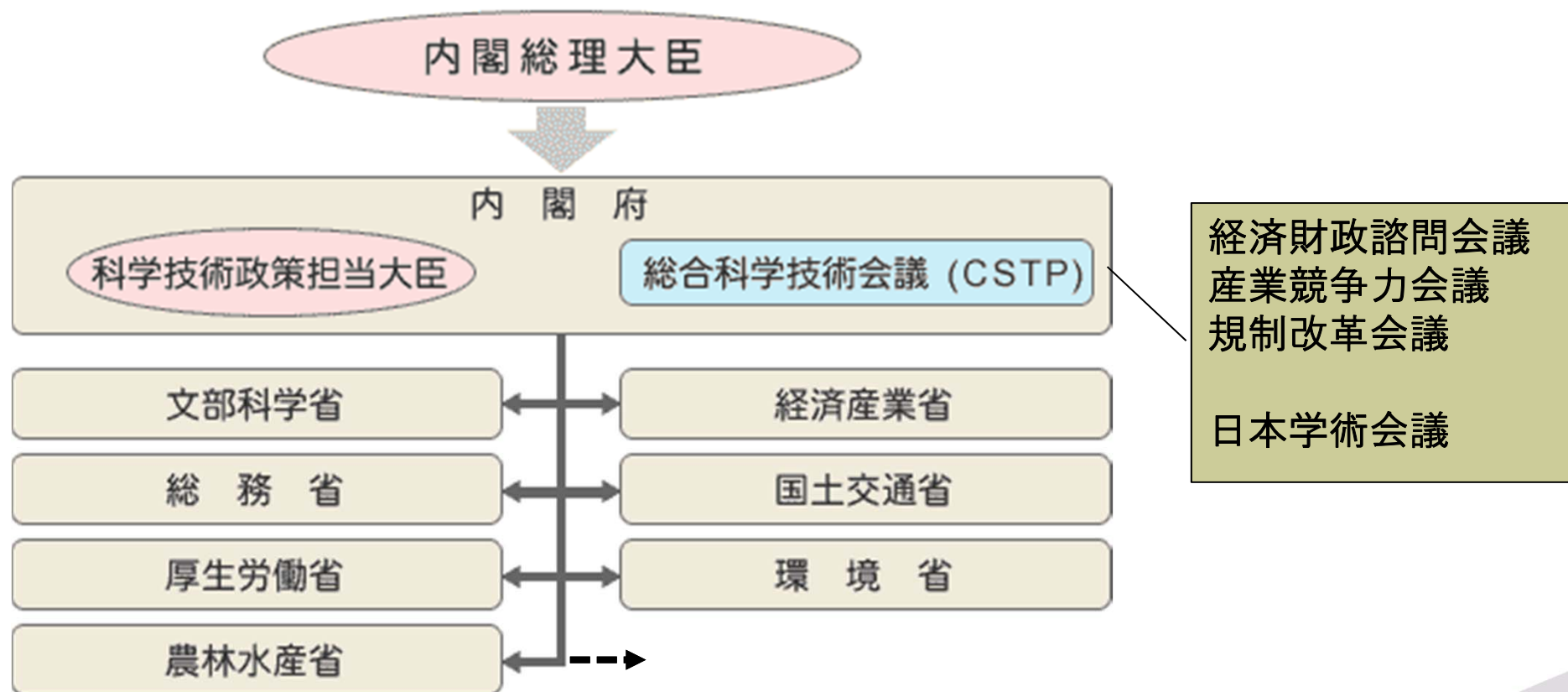
# 日本での動き

- 科学技術コミュニケーション
  - 第3期・第4期科学技術基本計画
  - 例
    - サイエンスカフェ
    - 科学技術コミュニケーター養成
    - 日本科学未来館
- 総合科学技術会議 (Council for Science & Technology Policy: CSTP) の機能強化
  - 「日本再興成長」へのインプット (mainstreaming STI policy)
  - 府省横断型プログラムの創設 (whole-of-government approach)
- 科学技術顧問の議論

個々の科学者のレベルでは？  
科学的アプローチの浸透？



# 総合科学技術会議(CSTP)



議長：内閣総理大臣  
まとめ役：科学技術政策担当大臣  
メンバー：閣僚(6)・有識者(7)・関係機関の長(1)  
目的：総合的・基本的な科学技術政策の企画立案及び総合調整  
特徴：内閣総理大臣等の諮問への答申、自ら意見具申

# 科学技術顧問に関する議論

- 科学技術イノベーション政策推進のための有識者研究会報告書(2011/12/19)
  - 科学技術イノベーション顧問(仮称)
    - 行政のミッションから独立した立場での適時的確な助言
    - 緊急時における一元的情報提供
    - 科学的助言への専念による中立性の確保
- 自民党科学技術・イノベーション戦略調査会「科学技術イノベーション政策の司令塔機能強化に関する提言(中間報告)」(2013/3/27)
  - 「世界で最もイノベーションに適した国」の実現⇒官邸のリーダーシップ⇒司令塔機能の強化⇒総理大臣等に対して科学技術イノベーション政策に関する助言等を行う科学技術顧問(仮称)の設置を検討
    - オブザーバーとして総合科学技術会議へ参加、他の司令塔機能(産業競争力会議、規制改革会議、IT戦略本部、宇宙開発戦略本部等)の状況を把握
    - 科学技術イノベーション政策について俯瞰的、専門的立場から総理大臣等に助言
    - 緊急時における総理大臣等に対する科学的助言と、国民等に対する科学的な見解を一元的な発信
- 科学技術イノベーション総合戦略(2013/6/7)
  - 総合科学技術会議の司令塔機能強化に加えて、官邸のリーダーシップを発揮するため、総理大臣等に対して科学技術イノベーションに関する助言等を行う科学技術顧問(仮称)の重要性も指摘されているが、今後の検討課題である

Positive>>  
Normative

# 諸外国では・・・

- 英国
  - － 政府主席科学顧問(GCSA)
    - 科学庁(GO-Science)の長官
    - 科学技術会議(CST)の共同議長
    - 主席科学顧問会議(CSAC)を主宰
    - 緊急時科学諮問グループ会合(SAGE)を主宰
    - (アウトリーチ活動)
  - － 大学・科学担当大臣
- 米国
  - － 科学技術担当大統領補佐官(APST)
    - 科学技術政策局(OSTP)の局長
    - 大統領科学技術諮問会議(PCAST)の共同議長
  - － 国家科学技術会議(NSTC): 大統領が議長の閣僚級会議
- オーストラリア
  - － 主任科学官(CS)
  - － 首相科学工学イノベーション会議(PMSEIC)
    - 議長: 首相
    - メンバー: 閣僚、CS、産業界・学会代表、有識者
  - － 科学技術調整委員会(CCST)
- フランス、ドイツには顧問制度はない





# 諸外国との比較から・・・

- 日本の体制
    - CSTP: 総理・閣僚・有識者
      - 会議体として総理に意見具申
      - 予算編成において府省連携の取り組みを誘導
    - 科学技術政策担当大臣
    - 官邸: 内閣官房、総理大臣補佐官制度、etc
- ↓
- アドバイス: 会議体 ➡ **＋個人？**
    - 過去にはインフォーマルな形で
  - 府省連携: 予算編成プロセス ➡ **定常的なシステム？**
    - 例: 英国の主席科学顧問会議 (CSAC)
      - ⇔ 科学技術イノベーション予算戦略会議 (日本)
  - 対応性: 平時の体制 ➡ **緊急時対応メカニズム？**
    - 例: 英国の緊急時科学諮問グループ会合 (SAGE)
      - ⇔ 内閣官房危機管理担当、各省庁 (日本)



# 配慮すべきは・・・

- ファクト

- 科学者の立ち位置
  - 政策アリーナのアクターに
- 科学者の軸足
  - Positiveな土俵からNormativeな土俵に

幾何学の精神  
(*esprit de géométrie*)と繊細  
の精神(*esprit de finesse*)を動員？

- 科学者への問いかけ

- 広がりがつつあるコンピテンシーとそこから発生するであろう責任にどう向き合う？
- 自らの専門性を超える「科学的見地」、更には「価値判断」に対する期待にどう向き合う？
- 「社会契約」の再考？

